



# ぽっぽ屋



## 輸送サービス労組 東京支部

### 2023.7.22 No. 002

### JR東日本輸送サービス労働組合

# 東京支部 第5回定期大会開催

## 大会宣言 (案)

私たちJR東日本輸送サービス労働組合東京支部は、六郷集会所において「第5回定期大会」を開催し、職場を原点にした運動を推し進め、労働組合の重要性と共にたたかう仲間の強化・拡大の成果を参加者全員で確認した。

私たちはこの間、本人希望を無視した施策、ジョブローテーション「強制配置転換」に強く抗議し、反対の意思を明らかにしてきた。そのような中、大田運輸区分会執行委員長に強制配置転換の懲應がかけられた。任期途中の執行委員長への懲應は組合員の信任を蔑ろにするものであり組織破壊攻撃だ。また事前通知の際、区長室に入室するや否や副区長が出入口を固め、監禁しながら区長が事前通知を一方的に読み上げる行為は異常な会社体質そのものである。現在、東京都労働委員会に田町運転区前執行委員長の強制配置転換の救済申し立て審議中と同様の不当労働行為である。自分自身にかけられた攻撃と捉え運動を展開していかなければならない。

6月7日、「JR八王子駅パンフ配布処分事件」において東京都労働委員会は、申立人であるJR東日本輸送サービス労働組合の主張をすべて認める「全部救済」の命令書が交付されたが、JR東日本会社はその命令に従わないことを明らかにした。これは労働組合法第27条の15に違反した行為であり、法令順守・一般常識の観点から見ても直ちに東京都労働委員会から交付された「全部救済」を履行すべきだ。そして、私たちは堂々と職場から労働組合活動を展開しよう！

「変革2027」を進めるため、施策の一方実施や労働の複務化と多能化による弊害が発生し安全とサービスの低下が連続して発生している。東京駅新幹線ホームスロープ板の事象、武蔵野線吉川駅での触車転落事故などは異常を認めても列車を停められない運行優先体質が蔓延、川越線のゲッドロック、東海道線の大船駅異線進入ではシステムによる安全が担保できない事象も連続して発生している。みどりの窓口の大規模閉鎖やえきねっとのシステム不具合では、施策を進めてきたIC関連に多大な影響が長時間全国で発生した。過度な作業の効率化やシステムの依存による現場力の低下と、教育・経験・要員不足が根本の原因である。今一度、私たちの仕事は「いのち」に携わる仕事であると再認識し「いのち」を最優先に考え、鉄道業の原点に立ち返り、安全文化をすべての仲間と再構築していかなければいけない。

私たちはエッセンシャルワーカーの使命と責務を果たし2期連続の赤字脱却を目指した。JR東日本の2022年度決算報告はすべてのセグメントが増収増益となり3期ぶりに黒字化を達成したが、JR東日本会社は「人への投資」をしない姿勢が明らかになった。設備投資優先、現場軽視の会社姿勢に多くの組合員から不満や怒りの声が止まない。更に夏季手当交渉では昨年確認した3点の確認事項を「一字一句確認したものではない」と真っ当な還元をしない回答を繰り返す会社姿勢を認めてはいけぬ。職場からの声を運動の軸とし総合労働条件向上を共に実現させようではないか！

近年、各地でこれまで類を見ない自然災害が発生している。甚大な被害をもたらされ気候危機を回避して持続可能な社会を実現できるかの重大な分岐点である。そして今、災害時有益だった鉄道網が危機に立たされている。会社が発表した利用者の少ない地方ローカル線「36路線72区間」の問題は、実際に現地に立ち実態調査を行ったことによって見えない部分が明らかになった。利用者の声を第一に考え、地域社会から必要とされるJR東日本を創り出さなければいけない。東京支部は今年、支援・賛同してくれる4名の議員を各議会に送り込んだ。地域社会と連帯し防災意識や私たちの運動の支援と連帯をさらに広げていく！

輸送サービス労組結成から3年「誰一人取り残さない」「元の職場を取り戻す」を合言葉に組合員から「共感」を得て行動してきた。ついに8月10日、東京地方裁判所から不当労働行為根絶に向けて立ち上がった4名の「脱退パワハラ個人訴訟」の判決が言い渡される。東京支部はすべての仲間と「共創」をつくりあげ「ENJOY!東京」の旗の下、あらゆる不法行為根絶に向けた当たり前の職場活動と組織強化・拡大を全組合員で展開していこう！

以上、宣言する。

2023年7月22日  
JR東日本輸送サービス労働組合  
東京地本東京支部  
第5回定期大会

# 大会宣言を満場一致で可決